

令和5年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号 (水稲)

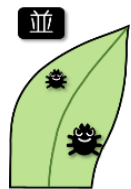
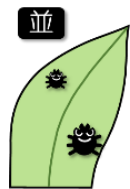
令和5年8月25日発表 (対象期間：令和5年8月下旬～9月上旬)



1- (1)

水稲病害虫の現況と予報 (概要)

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち	中生	並 (葉いもち)	並 	<ul style="list-style-type: none"> ・中東部では葉いもちの発生がやや多く見られています。 ・出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
紋枯病		少 	やや少 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の高温により進み、発病が増加するので注意が必要です。 ・昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 ・防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上になった時です。
トビイロウンカ		並 	並 	<ul style="list-style-type: none"> ・中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 ・トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 ・要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ	中生	やや多 	やや多 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、被害葉が多く見られる場合は早急に追加防除を実施しましょう。
斑点米カメムシ類		やや多 	やや多 	<ul style="list-style-type: none"> ・防除適期を逸さないようにしましょう。 カスミカメ類：出穂期～その10日後に1～2回。 その他加害種：出穂7日後～14日後に1～2回。

① 穂いもち (中生)		現況	予報
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が38.5% (平年37.0%) で、発生程度は1.06 (平年1.10) で、それぞれ過去10年で5番目と6番目になっています (±)。 ● 中国地方1か月予報では、気温が高く降水量が平年並みから多く見込まれます (±)。 	 (葉いもち)	
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

- **中東部では葉いもちの発生がやや多く見られています。**
- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行いましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

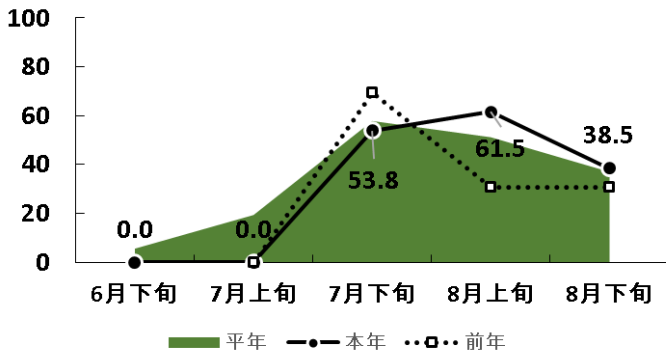
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

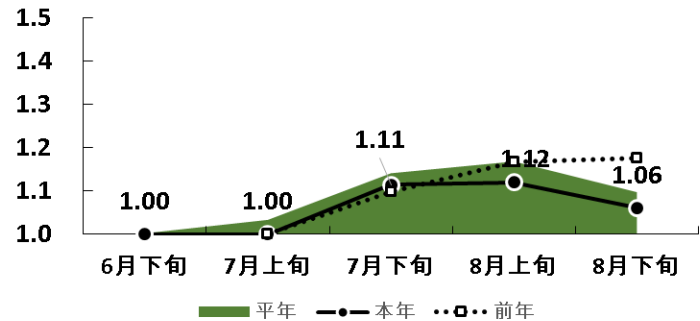
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ (葉いもち)】

葉いもち 発生地点率 (中生 13地点)



葉いもち 発生程度 (中生 13地点)



穂いもち



穂首部分 (拡大)

② 紋枯病

現況

予報

予報の根拠

- 8月下旬巡回調査では、発生地点率は29.6%（平年46.9%）、発生株率は2.5%（平年7.3%）で過去10年で最も低くなっています（-）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く降水量が平年並みから多く見込まれるため紋枯病の発生を助長します（+）。

少



やや少

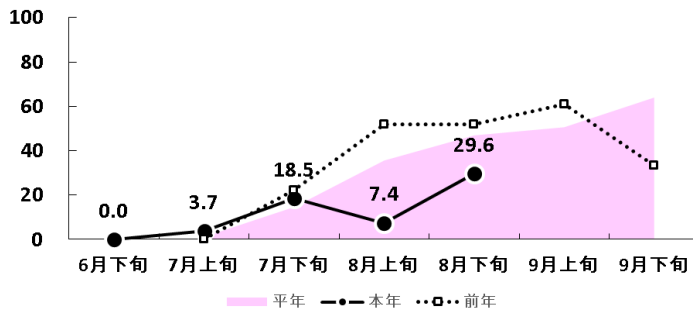


【防除上の注意事項】

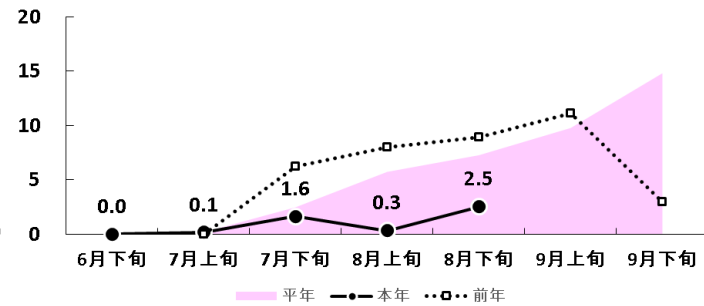
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や曇雨天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
- 昨年発生が多かったほ場は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期です。薬剤は、病斑のある葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、早生品種で10%以上、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(県全域27地点)



紋枯病 発生株率(県全域27地点)



紋枯病の病斑

③ トビイロウンカ

現況 予報

予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●一部ほ場では発生が確認されましたが、8月下旬巡回調査では確認されませんでした(±)。 ●予察灯、予察田では、確認されませんでした(±)。 ●中国地方1か月予報では、気温が高く、産卵抑制がかかるため増殖に不適です(-)。 	並	並
(+):多発要因 (±):平年並 (-):少発要因			

【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤(トリフルメゾピリム含有)を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

【巡回調査データ】

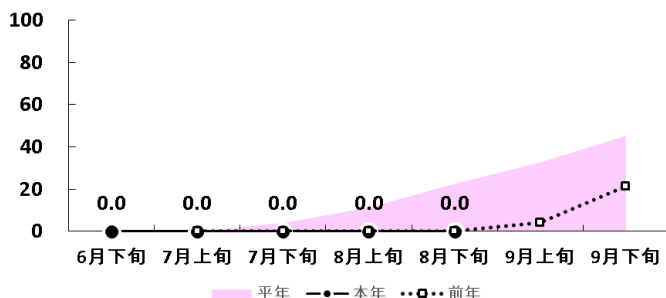


長翅型成虫

短翅型成虫

中老齢幼虫

トビイロウンカ 発生地点率(県全域 27地点)



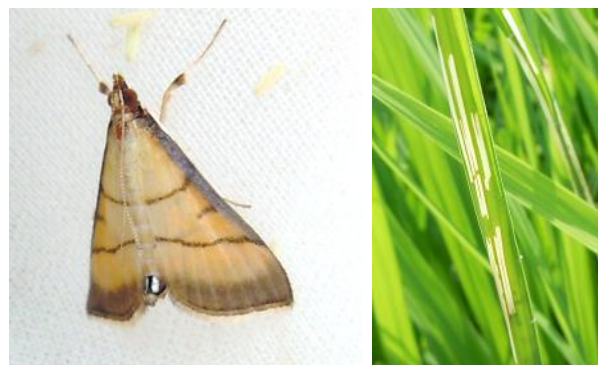
④ コブノメイガ (中生)

現況 予報

予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●8月下旬巡回調査では、発生地点率が22.2%(平年14.4%)で過去10年で3番目に高くなっています(+) ●中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です(+) 	やや多	やや多
(+):多発要因 (±):平年並 (-):少発要因			

【防除上の注意事項】

- 中東部、中西部、南部では、**9月上旬、中旬まで食害が続く可能性があります。**
- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、被害葉が多く見られる場合は早急に追加防除を実施しましょう。

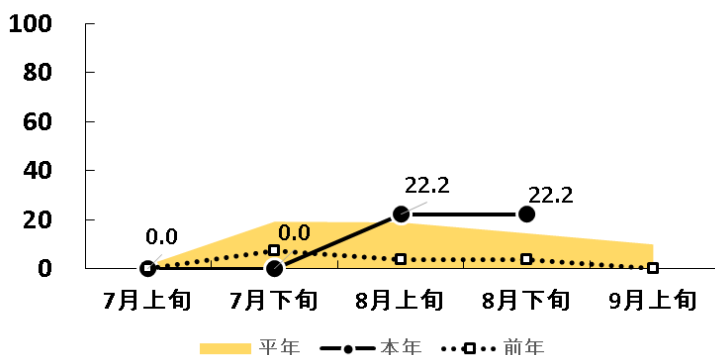


成虫

被害葉

【巡回調査データ】

コブノメイガ 発生地点率(県全域 27地点)



⑤ 斑点米カメムシ類

現況 予報

予報の根拠

- 8月下旬の本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は18.8% (32地点中6地点) で、カスミカメ類の平均すくい取り虫数は6.4頭 (前年3.8頭) で、北部での発生が多くなっています (表) (+)。
- アカスジカスミカメの8月第3半旬までの予察灯 (呉市) への累積誘殺数は21頭 (平年205.7頭) となっており、過去10年で最も少なくなっています (-)。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です (+)。

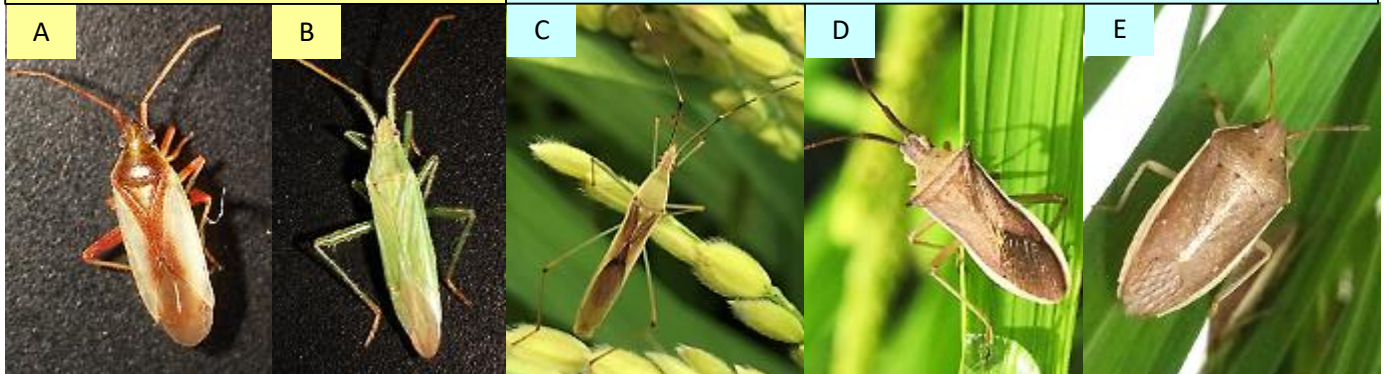


【防除上の注意事項】

- 周辺に雑地、休耕田が多い場合は、発生に注意しましょう。
- 要防除水準：(カスミカメ類) 4頭以上/20回振り、(その他加害種) 2頭以上/20回振り
- 防除時期：(カスミカメ類) 出穂期~その10日後に1~2回。
(その他加害種) 出穂7日後~14日後に1~2回。
※イネカメムシは出穂期とその10日後に防除することが効果があると言われています。
- 斑点米カメムシ類の調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「調査の方法」をご覧ください。

カスミカメ類



その他加害種



A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ、E：イネカメムシ

表. 本田すくい取り虫数 (頭)

地帯	区分	令和5年	令和4年	令和3年	平均
南部平均値	カスミカメ類	0	0.0	0.3	0.2
	その他加害種	0	0.0	20.3	10.2
中東部平均値	カスミカメ類	1.0	3.5	0.2	1.9
	その他加害種	0.1	0.0	0.0	0.0
中西部平均値	カスミカメ類	0.6	7.0	0.0	3.5
	その他加害種	2.0	3.0	0.0	1.5
北部平均値	カスミカメ類	46.8	0.3	0.0	0.1
	その他加害種	0.3	0.3	0.7	0.5
県全域平均値	カスミカメ類	6.4	3.8	0.7	2.3
	その他加害種	1.1	1.5	2.5	2.0

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">やや少</div> 	出穂前後の防除を徹底する。また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
セジロウンカ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">少</div> 	通常、出穂期以降は水田から移出するため防除の必要はありません。

(広島地方気象台 8月24日発表、8月26日から9月25日までの天候見通し)

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率60%、2週目は高い確率70%、3~4週目は高い確率60%です。

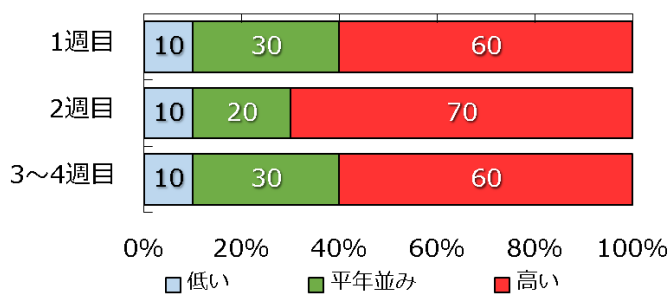
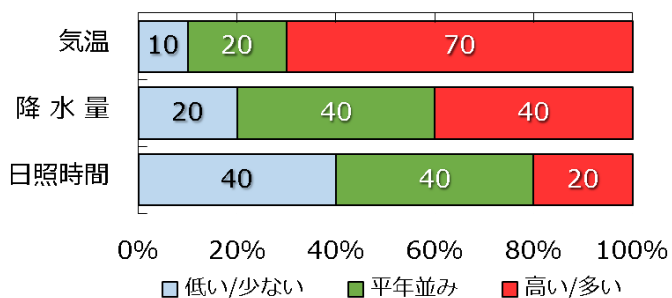


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
 農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





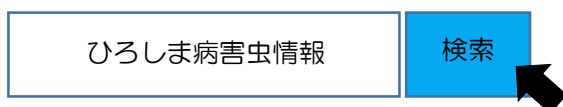
【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス



掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

ホームページ
リニューアル!



●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫子一ム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）